

事務連絡(安-2019-03)
2019年4月23日

(配布先)
施工担当部署長、建設所長
副部長、副所長
設備部長、安全長・安全主任
S・BLC関西社
関西支店取引業者災害防止協議会

関西支店
安全環境部長 

【紙回覧】鉄骨用親綱支柱等の使用基準の変更について(要請)

安全環境本部安全部長より要請がありましたので連絡します。

MILXより「機材NEWS No,56」が発行されています。内容の鉄骨用親綱支柱等の使用基準変更点および使用时注意点の確認を宜しくお願いします。

関西支店で平成30年5月8日に鉄骨用親綱支柱が破損して墜落するという休業4日以上災害が発生しています。

今回の要請は、あくまで鉄骨工事(鉄骨建方～ボルト本締め～デッキ敷き)における水平親綱システムに関するものです。水平親綱システムは、親綱支柱・水平親綱・緊張器それぞれが不具合の無いものを使用する様、宜しくお願いします。

以 上

(配布先)
部門安全環境部長

事務連絡 19-04
平成 31 年 4 月 18 日

安全環境本部
安全部長



鉄骨用親綱支柱等の使用基準の変更について（要請）

平成 31 年 2 月 1 日から施行された労働安全衛生規則の一部を改正する省令（平成 30 年厚生労働省令第 75 号（墜落制止用器具についての改正））に伴い鉄骨用親綱支柱等の使用基準が変更されたことを踏まえ、(株)ミルックスより別紙の「機材 NEWS No. 56」が発行されていますので、作業所関係者に周知願います。

以上

本社機材センター
 千葉県船橋市南海神2-3
 TEL.047-434-5618
 FAX.047-431-1176

関東機材センター
 群馬県邑楽郡板倉町泉野2-40-10
 TEL.0276-91-4480
 FAX.0276-91-4482

横浜機材センター
 神奈川県横浜市瀬谷区北町25-9
 TEL.045-920-0328
 FAX.045-920-0329

親綱支柱等の仮設工業会認定基準および使用基準の改正について

平成31年2月1日から施行された、労働安全衛生規則の一部を改正する省令(平成30年厚生労働省令第75号(墜落制止用器具についての改正))に伴い、墜落制止用器具(以降:安全带)の取付設備として使用可能な、『親綱支柱』『アルミスカイガード』等の仮設機材について仮設工業会認定基準が改正されました。

今回の改正に伴い、鉄骨用親綱支柱等の使用基準が変更となっております。

弊社保有の安全带取付設備については、新認定基準に適合しておりますが、ご使用の際には、使用基準の変更点および注意点について十分留意の上、ご使用いただきます様にお願い申し上げます。

1.鉄骨用親綱支柱の使用基準の変更点

- ・支柱を設置する作業床面と衝突する恐れのある床面又は機械設備等との垂直距離(H)を**6.75m以上**としてください。
- ・垂直距離(H)が6.75m未満の場合は、短いランヤード又はロック機能付き巻き取り式ランヤードを用いるか、従来の**胴ベルト型安全带**を使用する等、落下距離を小さくする措置を講じ、落下阻止時の床面等との衝突について**安全性を確認した上**で使用してください。

※**安全性の確認**の参考として、安全带種別ごとの落下距離(概算値)、及び安全带取付設備の違いによる作業床からの落下距離(概算値)は以下の通りです。

安全带種別ごとの落下距離(概算値)

安全带種類	フルハーネス型		胴ベルト型
	1種	2種	
ショックアブソーバ種類	1種	2種	-
ランヤード接続部の高さ	1.45m	1.45m	0.95m
ランヤード長さ	1.70m	1.70m	1.70m
ショックアブソーバの伸び(最大)	1.20m	1.75m	1.20m
フルハーネス等の伸び	1.00m	1.00m	-
落下距離計(目安)〈A〉	5.35m	5.90m	3.85m

※数値は新構造規格の安全带の場合(旧規格品については別途落下距離の検討が必要です)

安全带取付設備の違いによる作業床からの落下距離(概算値)(〈A〉+〈B〉)

※**落下距離より低い作業床では墜落時に床面等への衝突の恐れがあります。**

取り付け箇所	落下距離の加算〈B〉	フルハーネス型		胴ベルト型
		1種	2種	
親綱支柱+親綱	1.1m ※1	6.45m	7.00m	4.95m
堅固な手すり	-0.9m ※2	4.45m	5.00m	2.95m
鉄骨柱+ピース+ワイヤ(頭上に張った場合)	-1.5m ※3	3.85m	4.40m	2.35m

※1 支柱間隔10m、親綱のたわみ2.0m、親綱支柱高さ0.9mで計算

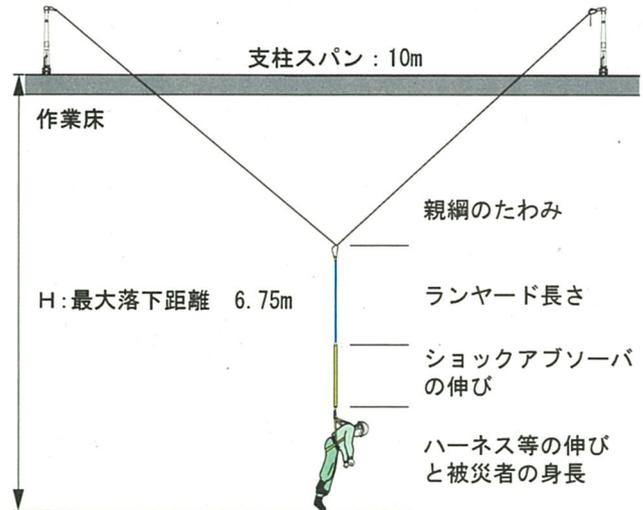
※2 手すりのたわみ0m、手すり高さ0.9mで計算

※3 ワイヤのたわみ0.4m、ワイヤ取付位置1.9mで計算

裏面に続く⇒

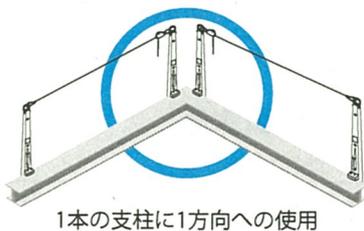
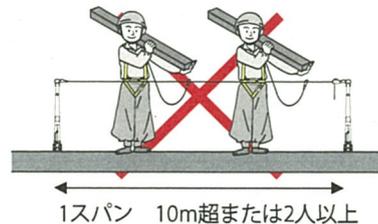
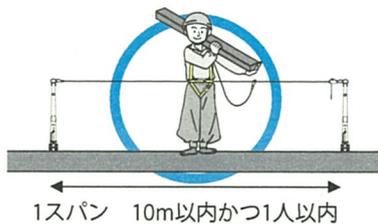
必要な資機材を必要な数だけ必要な場所に、すばやく確実にお届けいたします。

- ・落下距離は目安です。使用する安全帯の自由落下距離や使用可能な最大質量等を確認の上、作業内容、作業箇所の高さ、及び安全帯取付設備の性能に応じた適切な安全帯を**事業者が確認する必要があります**。
- ・使用する安全帯は、フルハーネス型と**胴ベルト型**の選択、その他にショックアブソーバの伸びの最大値、ランヤードの長さ等、考慮する必要があります。
- ・落下距離を縮めるには、ランヤードの長さを短くする、巻き取り式にする、親網支柱の設置間隔を短くする等の措置が必要です。



2. 鉄骨用親網支柱の使用時注意点

- ・1スパン1人で使用し、2人以上での使用はしないでください。
- ・支柱設置間隔は10m以内です。
- ・1本の支柱には平行方向と直交方向の2本の支柱用親網を同時に取付けないでください。
- ・親網・緊張器は、仮設工業会の認定品又は同等品を使用してください。
- ・支柱・親網・緊張器は、指定の組合せで使用してください。
- ・親網の種類は、合成繊維ロープφ16です。(ワイヤーロープ禁止)
- ・支柱の取付金物を奥まで差し込み、2本のボルトを均等に締めてください。
(TSH-KSの場合 締付トルク: 8 kN・cm以上)
- ・フランジと取付ボルトの間にゴム板やブルーシート等の緩衝材を挟まないでください。



仮設に関する様々なニーズを技術面でも支援いたします。